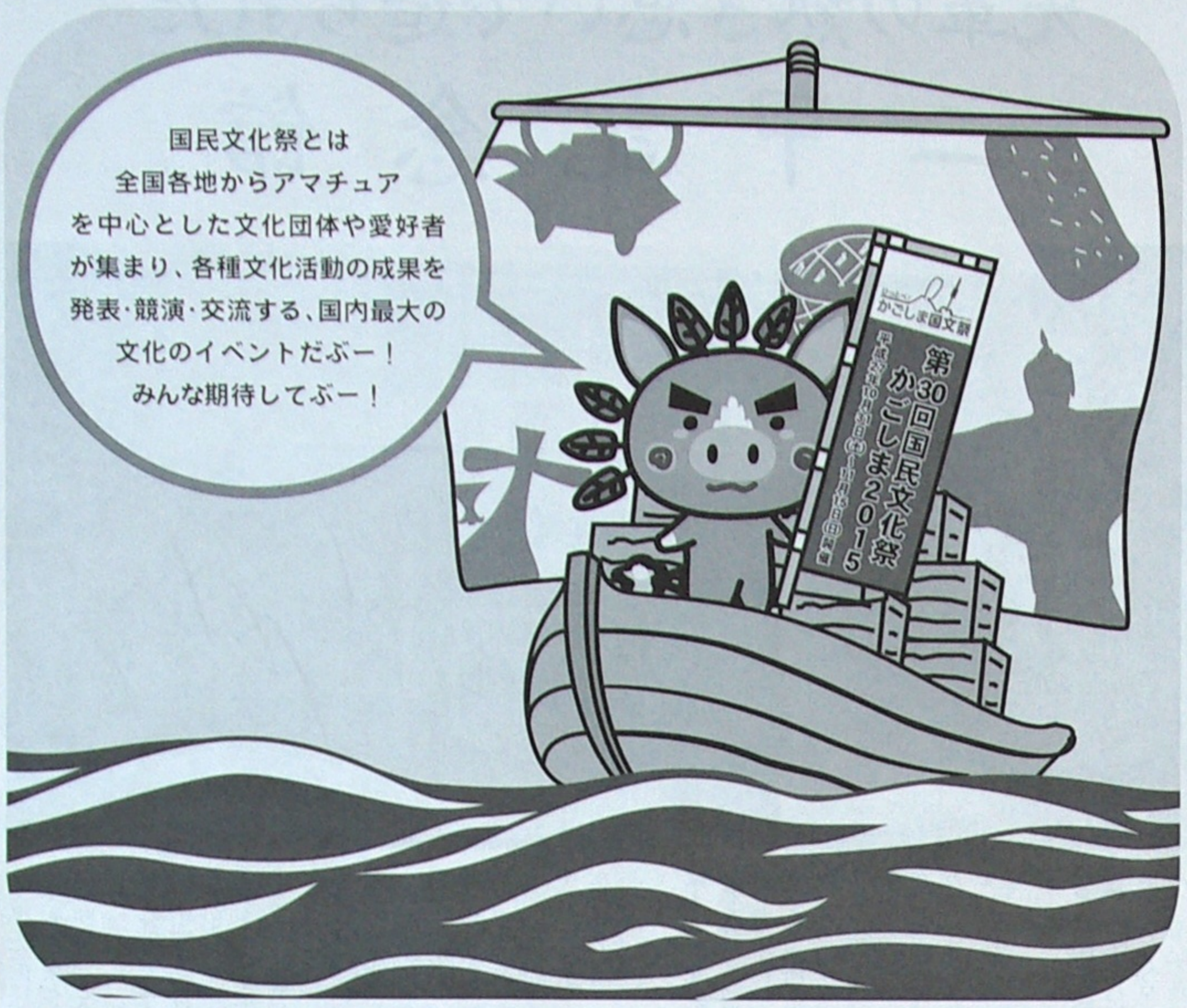
特集

国民文化祭

本物。鹿児島県

～文化維新は黒潮に乗って～



第30回国民文化祭 かごしま2015近づく

国民文化祭とは、全国各地で国民一般が行っている各種の文化活動（演技、吹奏楽、美術作品など）を全国規模で発表する国内最大の文化の祭典である。そして、そのような競演する場を提供することにより、国民の文化活動への参加の機運を高めること、新しい芸術文化の創造を促すことをねらいとしている。国民文化祭には、文化庁、開催都道府県、開催市町村及び文化団体などにより実施される主催事業の他に、それらの趣旨に賛同した地方公共団体等が実施する協賛事業がある。

また、国文祭と略され、「文化の国体」ともいわれている。

1977年から始まった全国高等学校総合文化祭に対抗し、「一般の団体でも全国規模で参加できる文化祭を！」と当時の文化庁長官で作家の三浦朱門氏が提唱し、文化庁と東京都の共催で1986年に第1回目の大会が行われた。それ以降、第2回熊本県、第3回兵庫県、第4回埼玉県、第5回愛媛県・・・というように毎年各県持ち回りで開催され、初めは、9会場、参加県数31都道府県だったものが、昨年山梨県で行われた「第28回国民文化祭」では、575会場、参加県数47都道府県にまで及び、年を追うごとに大規模なものとなってきている。このことは、国民が文化に関心を持ち、積極的にそのような活動に参加しつつあることの表れではないだろうか。

そして、節目となる「第30回国民文化祭」は、鹿児島で行われることが決定している。鹿児島大会が、どのような特色ある祭典になるのか、とても楽しみだ。

平成27年10月31日～11月15日の16日間に鹿児島県で第30回国民文化祭が開催される。

そこで、8月28日県庁にお邪魔して、この国民文化祭を主催する鹿児島県の県民生活局国民文化祭室の生見博志さん、西博夫さんのお二人から国民文化祭の目的・進捗状況等のお話を伺った。

Q、国文祭の開催地は、どのようにして決定されるのですか。

A、県から国に要望をして、国からの内定を受けて準備を進めます。

Q、今年の秋田大会に鹿児島はどのような形で出演するのですか。

A、9団体が出演者として参加します。また、特別出演者として「薩摩剣士隼人」も参加します。そして、次期開催県として国民文化祭旗の引継ぎもしてきます。そこで鹿児島のアピールもしてきます！

Q、鹿児島大会に他の県の方々がどのくらい参加する予定ですか。

A、先催県の例では、出演者が一万人前後、ただし観客については、把握できていないようです。

Q、鹿児島大会の特徴的な催しは何ですか。

A、鹿児島大会では、郷土芸能が多く披露されます。また、「食」の取組も六つあり、先催県に比べても多い数となっています。

Q、国文祭が行われる会場は決まっていますか。

A、開会式は、鹿児島アリーナ、閉会式は、宝山ホールで行われます。また、県内43の市町村に会場が設けられています。

Q、高校生はどのような形で参加できますか。

A、出演者として、各市町村の取組に公募していただいたり、観客として観覧していただいたり、また、ボランティアという形で参加していただくことを予定しています。

Q、国文祭を開催するにあたって経済効果などが期待できますか。

A、先催県である静岡県が15日間の開催で219万人を集客し、経済効果は178億円ということでした。また、県外からの参加者が鹿児島の良さに触れてリピーターとして観光に来てくださることを期待しています。

Q、甲南生にメッセージをお願いします。

A、若い皆さんに積極的に国文祭に関わっていただいて、鹿児島の文化を継承していく役割を担ってただきたいと思います。また、普段の生活の中で鹿児島の文化に触れる機会が少ないと思うので、ぜひ鹿児島の国文祭に足を運んでください！

大会テーマは「本物。鹿児島県～文化維新は黒潮に乗って～」

突撃!! 県庁訪問

成功のカギはおもてなしの心

平成27年10月31日～11月15日の16日間に鹿児島県で第30回国民文化祭が開催される。

そこで、8月28日県庁にお邪魔して、この国民文化祭を主催する鹿児島県の県民生活局国民文化祭室の生見博志さん、西博夫さんのお二人から国民文化祭の目的・進捗状況等のお話を伺った。

Q、国文祭の開催地は、どのようにして決定されるのですか。

A、県から国に要望をして、国からの内定を受けて準備を進めます。

Q、今年の秋田大会に鹿児島はどのような形で出演するのですか。

A、9団体が出演者として参加します。また、特別出演者として「薩摩剣士隼人」も参加します。そして、次期開催県として国民文化祭旗の引継ぎもしてきます。そこで鹿児島のアピールもしてきます！

Q、鹿児島大会に他の県の方々がどのくらい参加する予定ですか。

A、先催県の例では、出演者が一万人前後、ただし観客については、把握できていないようです。

Q、鹿児島大会の特徴的な催しは何ですか。

A、鹿児島大会では、郷土芸能が多く披露されます。また、「食」の取組も六つあり、先催県に比べても多い数となっています。

Q、甲南生にメッセージをお願いします。

A、若い皆さんに積極的に国文祭に関わっていただいて、鹿児島の文化を継承していく役割を担ってただきたいと思います。また、普段の生活の中で鹿児島の文化に触れる機会が少ないと思うので、ぜひ鹿児島の国文祭に足を運んでください！

大会テーマは「本物。鹿児島県～文化維新は黒潮に乗って～」

ひっとべ！かごしま国文祭

甲南生100人に聞きました。「文化」のイメージ

「甲南生100人に聞きました。」
国民文化祭に関するアンケート
調査日　平成26年８月21日（１～３年生100人）

1　国民文化祭を知っていますか。		知っている	16人
2　来年「国民文化祭」が鹿児島で開催されることを知っていますか。		知っている	11人
3　「鹿児島県の文化」で思いつく言葉を一つあげてください。			
薩摩焼・薩摩切子	19　人	大島紬	8　人
おはら祭り	18　人	桜島	5　人
食に関する言葉	14　人	サツマイモ	5　人
鹿児島弁	11　人	その他	11　人
薩摩藩に関する言葉	9　人		

まだまだ国民文化祭の認知度は高くないようです。
鹿児島の文化といえば薩摩焼や薩摩切子なんですね。

文化って何だろう？

広報委員　江嵜真南

【文化とは何か。】

「文化」といえば、わたしたち高校生にとっては評論文でお馴染みのテーマだ。それだけに、文化を固くて捉えにくく、わかりにくいものだと思っている人も多いのではないだろうか。

甲南生100人にアンケートを行い、「鹿児島の文化」で思いつく言葉をあげてもらった。どれも鹿児島を代表する文化と呼べそうなものばかりだ。しかし、この結果を見ているとあることに気が付く。それは、工芸品や食品など形ある「モノ」をあげた人が多いということだ。

【形ある文化】

確かに、「文化」という概念そのものがつかみにくいものであり、「モノ」によって体現された文化は比較的捉えやすいのだろう。サツマイモは鹿児島を代表する食物であり、薩摩焼や薩摩切子は鹿児島の先人たちがつくり出し、伝統として受け継いできた、いずれも文化の所産である。しかし、私の考える文化とは、より人々の精神のあり方に根ざした形なき文化についてである。

【形なき文化】

鹿児島県における切り花の消費量は全国一位である。切り花が飾られる場所は、お墓だ。鹿児島の人はよくお墓の手入れをすると言われるが、それはわたしを含め県外かやってきた誰しもが実感することであろう。それは鹿児島独特の風習であり文化であるが、そこからは先祖を敬い、大切にしようとする精神が伺える。

もう一つ、鹿児島の人々に馴染みの深い「田の神さあ」もあげておきたい。田んぼのあぜ道にたたずむお地蔵様に手を合わせ、「田の神さあ」と親しみを込めて呼ぶ。この文化もまた、自然への感謝と畏敬の念があらわれた鹿児島ならではのものではないだろうか。

【精神としての文化】

文化はしばしば「文明」と対比されるが、やはり文化に大切な要素は「人々の精神の反映」である。形なき文化は人々の精神のあり方をそのまま受け入れ、その文化を実践する者を媒介として精神が受け継がれていく。次世代の文化を担うわたしたちは、形ある文化を後世へ残す努力とともに、形なき文化を自らも実践し、毎日の生活の中に、古くから受け継がれてきていることの意味を考える必要があろう。

【生活と文化】

京都の景観を守るための京都市屋外広告物条例が9月1日から完全施行された。市は違反を続けた業者名の公表や強制撤去、も辞さない強い構えだ。業者にとっても生活がかかっているので、簡単には引き下がれないところだろう。観光都市としての側面もあるのだろうが、古い街並みを守りたいという思いは世界共通の思いらしい。

【心の支え】

わたしたちの精神にとって「文化」はどのような作用を及ぼすのか。先祖や神を敬い、古い日本の街並みを歩くとき、わたしたちはどのような気持ちになるのであろうか。そう考えると、自分を見失ったとき、生きる目的が分からなくなったとき、わたしたちの心の支えになってくれるのが、先人の生き方なのではないかと思う。

国民文化祭がわたしたちに伝えてくれるものは少なくないと思う。

もうひとつの全国文化祭　茨城総文祭終わる

本校美術部中村奈桜子さんに伺いました

7月31日、茨城県の23会場で開催された、第38回全国高等学校総合文化祭が5日間の日程を終了した。

文化部のインターハイとも呼ばれる、総文祭は、全国から集まった各県の代表により、日ごろの成果を発表する場であると同時に、全国の優れた高校生と直接交流することによる自己研鑽の機会でもある。

今年度甲南高校は、文学部が文芸誌部門で、美術部は3年4組の中村奈桜子さんが「美術・工芸」の部門で参加の権利を獲得した。ここでは中村さんに話を伺った。

「大きく迫力のある立体作品から細部まで丁寧に描き込まれた洋画、心に訴えかけてくるデザイン画など、全ての作品に制作者の熱意を感じ、衝撃を受けてばかりの文化祭でした。

様々な作品に触れる中で、自分の発想力や技術がいかに未熟であるかを痛感するとともに、こんなにも多くの高校生が美術に親しんでいるのだなあ、と感動しました。

水戸黄門で有名な茨城県水戸市で、全国の感性豊かな人々と交流できたことで、また一つ世界が啓けたように感じます。美術を通した、人と人とのつながりを、今後も大切にしていきたいと思います。」

来年の総文祭は滋賀県の琵琶湖で7月28日から8月1日の日程で行われる。

平成26年度鹿児島県代表作品

美術部　中村奈桜子（３年４組）
作品名「徒然ならぬままに」（洋画、F50号）
※平成25年度鹿児島県高校美術展　高校美術連盟大賞受賞

出場大会：第38回全国高等学校総合文化祭（茨城大会）
大会期間：平成26年7月27日～31日
会　　場：茨城県近代美術館（茨城県水戸市）